

経営(継承)のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方^④

苛政猛虎

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に「早川浩士の常在学塾」(筒井書房)、「介護人財創造塾」(筒井書房)、「介護保険改正に勝つ!経営」(年友企画)、「データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望」(日本医療企画)など。

http://www.hayakawa-planning.com
ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

「経世済民」

干支の虎にちなんだ話から。

「民のことを考えない政治は、虎よりも恐ろしい」という「苛政猛虎」の故事が「礼記」にある。

孔子が泰山(中国五岳の一つ)の麓を通り過ぎる折、近くの墓前で哭泣^{ミナクシ}する婦人が目に止まった。

弟子の子路に命じて、その婦人に尋ねさせた。

「あなたの哭泣には、何か深い心配事があるのですか?」

「はい、そのとおりです。以前に舅が虎に殺され、続いて夫、今度はずれは子どもが。次は私……」

「それは危ない。なぜ、他の土地へ移らないのですか?」

「このへんでは、苛酷な政治が行われていないからです」

この会話を聞いていた孔子は、弟子たちに向かって口を開いた。

「諸君、よく覚えておくがよい。酷い政治は、民にとって虎よりも恐ろしいということを」

10月26日、第173回臨時国会の衆議院本会議にて就任後初の所信表明演説を行った鳩山由紀夫首相は、「人間のための経済へ」という言葉を3回も用いた。

経済の語源は、隋代の王通が記した「文中子・礼楽篇」の「経世済民(世を經め民を済う)」にある。

今日でいう経済学の領域を超えて、政治学や社会学などを広範にとらえ、一人ひとりの民の暮らし方に踏み込んだ意が含まれていることをわかつていたのであろう。

52分の演説には、「国民」の二文字が47回も使われていた。

「新しい皮袋には、新しい酒を入れよ」

「幕末史の奇跡」と呼ばれた風雲児・坂本龍馬33年の生涯を、三菱グループ創始者・岩崎弥太郎の視点から描いた2010年のNHK大河ドラマ「龍馬伝」が始まる。

土佐藩(現在の高知県、高知城下に町人郷土・坂本家の次男として生まれた龍馬は、江戸に出て桶町千葉道場(東京駅の近く、現在の八重洲ブックセンター裏)で北辰一刀流の免許皆伝を許され、塾頭を務めるほどの剣客だった。

身長は180cmと大柄にもかかわらず、なぜか普通よりも短い刀を差していた。

龍馬を尊敬する同郷の士・松垣直枝は、これを倣って短い刀を差したという。

ある日、龍馬に会うと、

「刀の時代は終わったよ。俺はこれさ」

と、ピストルを見せてくれた。慌てた松垣は、何とか工面してピストルを持つようになった。

すると今度は、

「これからの世はこれさ」と、懐からあるものを取り出した。それは、新式拳銃ではなく「万国公法」であった。

時勢に敏感であるばかりか、過去に執着することもなかった。「常に眼差しを未来に向けていた」ということを知るための大事な逸話である。

政権交代によって誕生した新政権の下、21世紀の超高齢社会に基づいた社会保障基盤整備の再構築が焦眉の急となっている。

社会や時代の新たな動きを取り入れるには、従来の仕組みと運用に大胆な見直しが必要である。

『マタイ福音書』には、「新しい皮袋には、新しい酒を入れよ。新しい酒を古い皮袋に入れてはならない」との箴言がある。

*1 親族の死を弔って泣き叫ぶ礼のこと。 *2 本誌2006年9月号本欄を参照。